山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第34号（2012. 9）

中学校美術科における教育課程の実質化の事例と考察

―中学校美術科での実践を通して―

西村　優子*・宮園　裕二**

Putting the Secondary School Art Curriculum into Practice:
A case study of art activities

NISHIMURA Yuko*，MIYAZONO Yuzi**
（Received August 6, 2012）

キーワード：美術教育、教育課程、中学校、実質化

はじめに

教育課程の改訂にともない、新しい学習指導要領が平成20年に改訂され、平成24年度から中学校においても完全実施となった。美術科においては、教科指導の目的と手段の明示、表現と鑑賞の領域に共通の内容を指導する「共通事項」の新設とともに美術文化について理解を深める視点が加わった。本稿は、新たな教育課程の実質化について、指導計画や教材の中に学習指導要領をどのように反映していくかについて、事例を提示して述べ、その方法について一考する。

１．中学校美術科の平成20年学習指導要領の改訂のポイント

平成20年の教育課程の方針に基づいて、中学校の学習指導要領は次のような視点で改善が図られている。

①教科の目標では、「美術文化についての理解を深め」を加え、美術を愛好する心情と感情を育て、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを一層重視する。（目標の改善）

②「Ａ表現」の内容を「(1)感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(2)伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(3)発想や構想したことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。」とし、内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。（表現領域の改善）

③我が国の美術についての学習を重視し、第１学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、３年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにする。
自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第１学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、３年間で説明し合ったり批評し合ったりなどの言語活動の充実が図られるようにする。（鑑賞領域の改善）

④表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要となる資質や能力を〔共通事項〕として示す。〔共通事項〕は、「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の学習を通して指導し、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分育成されるようにする。（〔共通事項〕の新設）

⑤スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒が学習経験や能力、発達特性等の実

＊山口大学教育学部附属光中学校　＊＊山口大学教育学部附属山口中学校

態を踏まえ、自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示す。（表現形式などの取り扱い）

②の表現領域の改善については、題材の設定において、絵、彫刻、デザイン、工芸といった枠組みだけではなく、発想や構想に関する項目と、創造的な技能に関する項目に分けられた内容の両者を組み合わせ、生徒の実態などの踏まえて幅広く題材を設定するように定められている。

④の〔共通事項〕の新設について具体的には、第１学年から第３学年まで同じで、「ア　形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。　イ　形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。」と定めている。

以下では、中学校における実践事例を採り上げて、教育課程実質化について、その方法を考える。

２．年間指導計画と学習指導要領

２－１　年間指導計画の作成

『中学校学習指導要領解説　美術編』（平成20年9月　文部科学省）における「第4章　指導計画の作成と内容の取扱い」に照らし合わせ、山口大学教育学部附属山口中学校・光中学校の両校で採用している教科書（Ａ社）の題材を表１～３のように配列した。以下、第１学年、第２学年及び第３学年の年間指導計画作成のポイントを述べる。

表１．　第１学年

月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	2・3	オリエンテーション 美術との出会い 伊藤若冲「鳥獣花木図屏風」	Ｂ鑑賞	1
		4～7	序章・感じる心があるから… 自然の形や色・光の表情を感じ取ろう/図画工作から美術へ/身近にある形や色彩から/光の美しさに魅せられて	Ｂ鑑賞	1
		4・5	巻末資料 「いろいろな技法を用いて」	Ａ(1) Ａ(3)	1
		10・11	いろいろなスケッチ	Ａ(1) Ａ(3)	2
5 6 7		32・33	美術館へいってみよう！ 桂ゆき「欲張り婆さん」	Ｂ鑑賞	1
		28・29	手でつくる心 木の特性を生かしてつくる ～スプーンの制作～	Ａ(2) Ａ(3)	8
9		8・9	感じたことをそのままに 見たり触れたりしたことを自由に表わそう ～紙粘土の靴制作～	Ａ(1) Ａ(3)	5
10 11	後期	16・17	小さな命を見つめて 身近な生命を表わそう ～一版多色木版画の制作～	Ａ(1) Ａ(3)	8
		42	巻末資料「色を学ぶ」	Ａ(1)	2
		43	巻末資料「色の性質」	Ａ(3)	
12 1		36・37	「和風」を味わう 日本の伝統的な文様 ～扇のデザイン～	Ａ(2) Ａ(3)	10
		44	巻末資料 「日本の色づかい」	Ｂ鑑賞	1
2 3		24・25	文字や形で伝える 文字の形から自由に発想しよう マークのデザインを考えよう	Ａ(2) Ａ(3)	5
		38・39	アジアの多様な美術 仮面に見るアジア 暮らしに見る形と色彩	Ｂ鑑賞	1

表２．　第２学年

月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4	前期	上 2・3	オリエンテーション 生活の中に生きる美術 アニッシュ・カーブ「クラウド・ゲート」	Ｂ鑑賞	1
		上 46・47	造形ギャラリー 受けつぎつくる人の姿 ～ティッシュペーパー～	Ａ(2) Ａ(3) Ｂ鑑賞	1
5 6 7		上 38・39	「まとめる」方法と工夫 ポスターを工夫する ～思いを伝えよう～	Ａ(2) Ａ(3)	10
9		上 42	巻末資料 「写真撮影の第一歩」	Ａ(1) Ａ(3)	2
10 11	後期	下 8・9	イメージの変容 制作上の試行錯誤 ～季節のイメージをステンシルで表わす～	Ａ(1) Ａ(3)	10
12		下 43～45	日本美術の展開と世界の交流	Ｂ鑑賞	1
		上 16・17	生活を彩るデザイン 生活に役立つ光のオブジェ 座る形のデザイン	Ｂ鑑賞	1
1 2 3		上 18～21	手でつくる楽しみ 紙でつくる 金属でつくる 川でつく 布を染めつくる 木でつくる	Ａ(2) Ａ(3)	10

表３．　第３学年

月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間		月	学期	ページ	テーマ/題材	領域	時間
4 5 6	前期	下 2・3	メッセージを表わす ～現代美術作品の鑑賞～	B鑑賞	1		11	後期	下 12・13	だまされる楽しさ 形や色彩のトリックを生かして ～グリーティングカードの制作～	A(2) A(3)	2
		上 10・11	風景に思いを込めて 表現方法を工夫して表そう ～風景画の制作～	A(1) A(3)	8		12		下 40・41	文化遺産を守る アンコールの遺跡群と修復 修復家の仕事 岡本太郎の「明日への神話」	B鑑賞	2
7 8		下 46・47	造形ギャラリー 「ゲルニカ」は語る	B鑑賞	2		1 2 3		下 42	巻末資料「金属でつくる」	A(3)	1
		上 6・7	私との対話 まなざしに込められた意思 ～自画像デッサンの制作～	A(1) A(3)	5				下 8・9	イメージの変容 探そう、自分の色や形 ～中学校生活の思い出を銅板レリーフで表現しよう～	A(2) A(3)	8
9 10		下 14・15	版表現の豊かさ いろいろな版表現を楽しもう	A(1) A(3)	8							

表４.「Ａ表現」の指導計画の作成例Ⅰ（前述『学習指導要領解説　美術編』）

A表現 ＼ 学年	(1) と (3)		(2) と (3)	
	感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動		伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	
	描く活動	つくる活動	描く活動	つくる活動
第１学年	○	○	○	○
第２学年	○			○
第３学年		○	○	

表５.「Ａ表現」の指導計画の作成例Ⅱ
（前述『学習指導要領解説　美術編』）（第１学年は表４に同じ）

第２学年		○	○	
第３学年	○			○

２－１－１　第１学年年間指導計画作成のポイント

第１学年においては、美術の表現能力が幅広く身に付くようにするため、表４（前述『学習指導要領解説　美術編』）に従って、「Ａ表現」（１）及び（２）それぞれにおいて（３）と関連付けた内容とともに、描く活動とつくる活動のいずれも偏りなく扱うように定められている。また、「Ｂ鑑賞」については、学習指導要領解説において充てる時数は明示されていないが、目標達成のために適切と思われる時数を配列している。以上のことから、第１学年の時数45時間を鑑みて、共通事項などをもとに表現や鑑賞の能力が効果的に身に付く題材の選択や作品の大きさについて検討・工夫した。

２－１－２　第２学年及び第３学年年間指導計画作成のポイント

第２学年及び第３学年については、『学習指導要領解説　美術編』（前述）において、表４や表５のように「Ａ表現」（１）及び（２）それぞれにおいて（３）と関連付けた内容と、描く活動つくる活動、そして「Ｂ鑑賞」とが２年間の中でバランスよく網羅できるようにと述べられている。この度は、表４を参考にするとともに、生徒の心身の発達に合わせ、より質の高い学習をさせるため、ひとつの題材にある程度時間をかけて指導ができるような題材の選択を考えた。

３．具体的な教材

３－１　第１学年、「Ａ表現」（１）及び（３）、描く活動

３－１－１　題材名「身近な生命を表わそう～一版多色木版画の制作～」

３－１－２　指導のポイント

(1)　命を感じた体験を振り返らせる活動を通して、命のたくましさや温かさなどを想起させ、「たくましい命」などのように自分なりのテーマを設定させる。「Ａ表現」（１）ア

(2)　自分のテーマに合わせて、彫刻等や絵の具、バレンなどの道具や材料の使い方を工夫させる。「Ａ表現」（３）ア

(3)　重色やグラデーションを取り入れた配色計画を立てさせることによって、見通しをもって制作を進めさせる。「Ａ表現」（３）イ

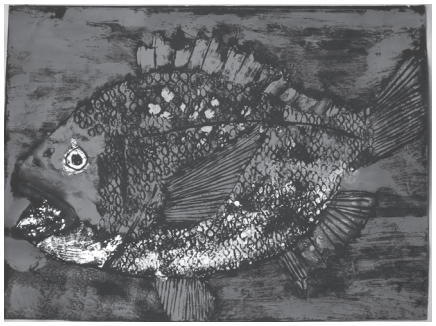

写真１　１年「つり上げられた魚」

(4)　配色においては、色の性質によってもたらされる感情を確認させ、意図して自分の表現に取り入れるようさせる。共通事項（１）ア

３－２　第１学年、「Ａ表現」（１）及び（３）、つくる活動

３－２－１　題材名「見たり触れたりしたことを自由に表そう～紙粘土の靴制作～」

３－２－２　指導のポイント

(1)　日ごろから使用している自分の靴（通学用・部活用・上履きなど）に意識を向け、スケッチを通して詳しく観察させる。「Ａ表現」（１）ア

(2)　スケッチを基に、靴を題材にした表現のテーマを決めさせる。「Ａ表現」（１）イ

(3)　紙粘土の基本的な扱い方を学習し、自分の表現のテーマの実現を目ざして制作に取り組ませる。「Ａ表現」（３）ア

写真２　１年「上靴」

(4)　制作の途中段階で、自分の作品が、自分の目ざすテーマに近づ いているかどうかを自分なりに確認しながら完成を目指すようにさせる。共通事項（１）ア

３－３　第１学年、「Ａ表現」（２）及び（３）、描く活動

３－３－１　題材名「日本の伝統的な文様～扇のデザイン～」

３－３－２　指導のポイント

(1)　美しく多様な伝統文様にはそれぞれ意味があることや色彩についても日本固有の表現（色名やかな重ねの式目など）があることに気付かせることによって、文様と調和のよい和風の発想の参考とさせる。共通事項（１）イ

(2)　多様な表現のひとつとして、扇面に描かせることを通して、画面ということを意識して構成させる。「Ａ表現」（２）ア

(3)　平塗りをさせることによって、不透明水彩絵の具の性質や基本的な道具の特徴を生かして作品を美しく計画的に着色させる。「Ａ表現」（３）イ

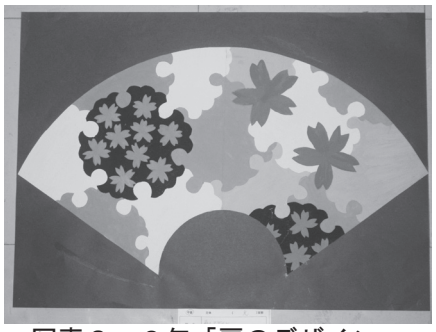

写真３　２年「扇のデザイン」

３－４　第１学年、「Ａ表現」（２）及び（３）、つくる活動

３－４－１　題材名「木の特性を生かしてつくる～スプーンの制作～」

３－４－２　指導のポイント

(1)　使う目的や材料の色や形の美しさなどを考えさせ、作品の構想を練らせる。「Ａ表現」（２）ウ

(2)　形の表し方を身につけさせ、表現したい色や形に応じて、材料や用具の使い方を工夫させる。「A表現」（３）イ

(3)　スプーンの形や色、材料の性質や、それらがもたらす感情を理解させる。共通事項（１）ア

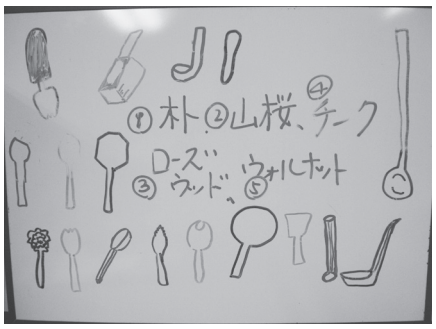

写真４　グループでスプーンの形や使う目的、材料について話し合う

３－５　第１学年、「Ｂ鑑賞」

３－５－１　題材名「美術館へ行ってみよう！～欲張り婆さんの鑑賞～」

３－５－２　指導のポイント

(1)　美術文化の拠点のひとつである美術館の間取りや建物の様子について考えることを通して、美と機能性の調和や美術文化に対する興味や関心を高めさせる。「Ｂ鑑賞」（１）

(2)　身近な美術館の所蔵品をもとにギャラリートークをすることを通して、地域の美術館に興味をもたせる。「Ｂ鑑賞」（１）

(3)　作品に対して感じたことや考えたことを説明し合う活動を通して、作者の心情や意図と表現の工夫を感じ取り作品に対する見方を広げさせる。「Ｂ鑑賞」（１）ア

(4)　作品に対して感じたことや考えたことを説明し合う活動を通して、形や色彩の特徴を基に、作品の全体的なイメージをつかませる。共通事項（１）イ

写真５　桂ゆき「欲張り婆さん」山口県立美術館蔵

３－６　第２・３学年、「Ａ表現」（１）及び（３）、描く活動

３－６－１　題材名「いろいろな版表現を楽しもう～シルクスクリーン版画の制作～」

３－６－２　指導のポイント

(1)　孔版にあたるシルクスクリーン版画やカッティング製版の特性を理解し、アイデアスケッチを行いながらテーマを決めさせる。「Ａ表現」（１）ア

(2)　自分の定めたテーマにふさわしい構図や色彩計画を立てさせ、見通しをもって制作に取り組ませる。「Ａ表現」（３）イ

(3)　製版後、刷りにおいて試行錯誤を繰り返す中で、混色する絵具の分量や刷る際の力加減などを理解し、刷りによる表現力の豊かさを感じ取らせ、作品に活かすようにさせる。「Ａ表現」（３）ア　「共通事項」（１）ア

写真６　３年「coller in…」

３－７　第２・３学年、「Ａ表現」（１）及び（３）、つくる活動

３－７－１　題材名「探そう、自分の形や色～中学校生活の思い出を銅板レリーフで表現しよう）～」

３－７－２　指導のポイント

(1)　「中学校生活の思い出」という主題を基に、印象に残っていることをいくつか挙げさせたり、そのことについて級友と話し合わせたりする活動を通して、中学校生活の思い出として残しておきたい自分なりの主題を決めさせる。「Ａ表現」（１）ア

(2)　形や色の単純化や省略、強調を行うことを通して、自分の主題の表現を追求させる。「A表現」（1）イ
(3)　銅板や鏨、硫化処理の特性について学ぶとともに、制作計画を立てることを通して、材料や道具の特性を生かして、より主題の表現ができるように見通しをもって制作を進めさせる。「A表現」（3）イ

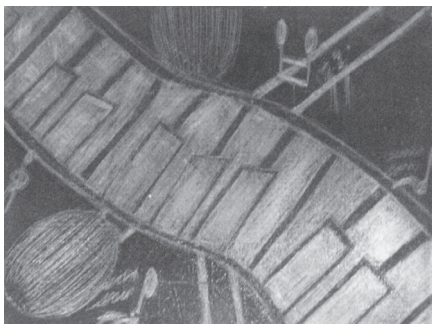

写真７　３年「シロフォン」

３－８　第２・３学年、「Ａ表現」（２）及び（３）、描く活動
３－８－１　題材名「ポスターを工夫する～思いを伝えよう～」
３－８－２　指導のポイント
(1)　お互いのアイデアスケッチについて話し合う活動を通して、ポスターのテーマを伝えやすくするためのモチーフや画面構成、配色などの工夫をさせる。「A表現」（2）イ
(2)　着色方法を検討させることによって、自分の表現意図に合った着色を工夫させる。「A表現」（3）ア
(4)　配色計画を通して、トーンや進出・後退といった色の特性とそれによってもたらされる感情を理解させる。共通事項ア

写真８　２年「緑化ポスター」

３－９　第２・３学年、「Ａ表現」（２）及び（３）、つくる活動
３－９－１　題材名「生活に役立つ光りのオブジェ～光のデザイン～」
３－９－２　指導のポイント
(1)　光の実験を通して、材料と光の性質や、それがもたらす感情を理解させる。共通事項（1）ア
(2)　光の実験結果をもとにアイデアスケッチを作成することを通して、形や色、材料、光などの組み合せを考えさせ、作品の構想を練らせる。「表現A」（2）ア
(3)　制作計画を立てることを通して、材料や用具、表現方法の特性などを考え、見通しをもって制作させる。「表現A」（3）イ

写真９　光の実験によって、材料の違いによる光の様子の違いを調べる。

写真１０　２年「和紙による明かり」

３－１０　第３学年、「Ｂ鑑賞」

３－１０－１　題材名「メッセージをあらわす」

３－１０－２　指導のポイント

(1)　現代美術作品（デュシャンの「泉」やクリストの「囲まれた島々」など）と向き合わせ、自分なりの印象やイメージをもたせる。共通事項（１）ア

(2)　自分なりの印象やイメージを基に、他者の印象に触れたり情報を得たりしながら自分の印象と向き合い続ける。「Ｂ鑑賞」（１）ア

(3)　デュシャンやクリストなどの作品を「常識への挑戦（秀学社美術資料）」というテーマで紹介し、私たちのどのような常識に対するメッセージを伝えようとしたのかを考えさせる。「Ｂ鑑賞」（１）イ　共通事項（１）イ

写真１１　「泉」をみる生徒

４．教材開発と学習指導要領

中学校美術科において、題材を設定する際や新たに教材の開発をする際に、まず、念頭におかなければならないのは、表現領域における発想や構想の能力と創造的な技能の扱いである。この二つが調和よく働くことで生徒の創造性や個性が発揮されることになる。具体的には、「Ａ表現」の（１）又は（２）のうちの一方と（３）の組み合わせで指導する内容の決定をすることである。初めに、絵画、デザインではなく、どのような発想や構想の能力、創造的な技能を指導するかを考えることが重要である。また、様々な美術表現を楽しめるように描く活動とつくる活動のいずれも扱うように考える必要がある。特に、第１学年では、表現の能力を幅広く身に付けさせるため、「Ａ表現」（１）及び（２）それぞれにおいて、（３）と関連付けて描く活動とつくる活動の両方をさせる。したがって、短時間で制作可能であり、表現の能力も効果的に身につくような題材を考えていく必要がある。第２学年及び第３学年では、生徒の発達段階に合わせ、より質の高い学習に向けて、一題材の指導にある程度時間をかけることが必要である。しかし、２年間のうちで「Ａ表現」（１）及び（２）の双方が扱われること、描く活動とつくる活動のいずれも扱われることを考えて題材の設定や開発を行うようにする。

また、鑑賞においては「美術文化についての理解を深め」という目標が加えられている。教育基本法（「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」）の趣旨を踏まえてである。私たちの身のまわりに美術があるということやものが人に与える影響について新たな視点を生徒が獲得していけるような題材を考えていくことが学ぶ意欲の喚起にもつながると考える。

生徒は大人に比べイメージを直感的に強く感じる傾向がある。指導において、［共通事項］は重要である。表現、鑑賞いずれの分野においてもざっくりと自分の制作する作品や鑑賞する作品のイメージを捉えさせたり、自分が抱くイメージがどこからくるのか考えさせることで、自分の作品の工夫や鑑賞する作品の意匠などについて考えさせることができる。イメージについては、言語活動によって生徒はより考えやすくなるものである。指導の過程に必ず仕組んでいくようにすべきである。言語化できることによって、生徒どうしで作品などについて話し合ったり、批評し合ったりすることは、美術の教科を超えて生徒がコミュニケーション能力を身に付けていくことにもつながる。美術においては、いわゆる言葉だけではなく、スケッチや色の感情など美術特有な言語も視野に入れ、題材を設定したり、開発したりすることが可能である。

最後に、これまでの指導要領では、内容について「次のことができるように指導する」となっていたが現行では、「～活動を通して～に関する次の事項を指導する」となっている。これは、題材を設定する際や新たに教材の開発をする際に、つねに育くむ資質や能力を意識して指導計画が立てられるようにするためである。何のためのこの活動をさせるのかということについて、今一度、目標や内容を確認して授業を仕組むことが重要である。

参考文献

１）文部科学省，『中学校学習指導要領解説　美術編』，平成２０年９月.
２）日本文教出版，『美術１　教師用指導書』，平成２４年３月.
３）日本文教出版，『美術２・３上　教師用指導書』，平成２４年３月.
４）日本文教出版，『美術２・３下　教師用指導書』，平成２４年３月.
５）日本文教出版，『美術１』，平成２４年１月.
６）日本文教出版，『美術２・３上』，平成２４年１月.
７）日本文教出版，『美術２・３下』，平成２４年１月.
８）光村図書出版，『美術１』，平成２４年１月.
９）光村図書出版，『美術２・３上』，平成２４年１月.
１０）光村図書出版，『美術２・３下』，平成２４年１月.
１１）開隆堂出版,『美術１』，平成２４年１月.
１２）開隆堂出版，『美術２・３上』，平成２４年１月.
１３）開隆堂出版，『美術２・３下』，平成２４年１月.